

高校生防災意識高める

被災地支援に取り組む県内の大学生ボランティア団体「おかもまバトン」のイベント「みんなで考え、今日から始める防災」が22日、市総合文化センターであ

り、市内の高校生が防災リュックの中身の検討、非常食の試食などを通して防災への意識を高めた。(岡本遥加)

リュックの中身 何が必要 ▶▶▶
乾パンなど非常食を試食 ▶▶▶



地域防災を担う人材の育成が目的。おかもまバトンの6人と、玉野高校、光南高校の1、2年生28人が参加した。

防災リュックの中身について何が必要か検討。「防寒にカイロがいる」「安さとコンパクトさを

防災リュックの中身に何が必要かを考える市内の高校生と、おかもまバトンの大学生

重視しよう」と意見を出し合い、携帯トイレ、包帯、ヘルメットなどの写真と価格が記されたカードから、優先度が高いと思う物を選んでいった。大学生は「足を切らないようにスリッパは必要」「外で生活することも想定しよう」などと助言し

被災地支援学生団体 市内から28人参加 市文化センターで催し

た。続いて、湯や水を注ぐだけで食べられるアルファ米、乾パンなどの非常食を試食。大学生は、非常食を食べながら買いたいままでも意外とおいしい」などと感想を話した。

玉野高2年西田羽留輝さん(16)は「防災リュックが家に無いので早速備えたい。大学生は年が近くて話しやすい。たくさん質問できた」。光南高2年橋本歩実さん(17)は「中身選びは、防寒具など季節をどこまで考慮すればいいか判断が難しかった」と振り返った。

熊本地震の被災地を訪れた大学生の体験報告もあった。

おかもまバトンの代表を務める岡山大文学部2年中山遥さん(19)は「これから家庭や地域のリーダーになる高校生と一緒に防災について考えることができてよかった。知識を周りに伝えてほしい」と話していた。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。